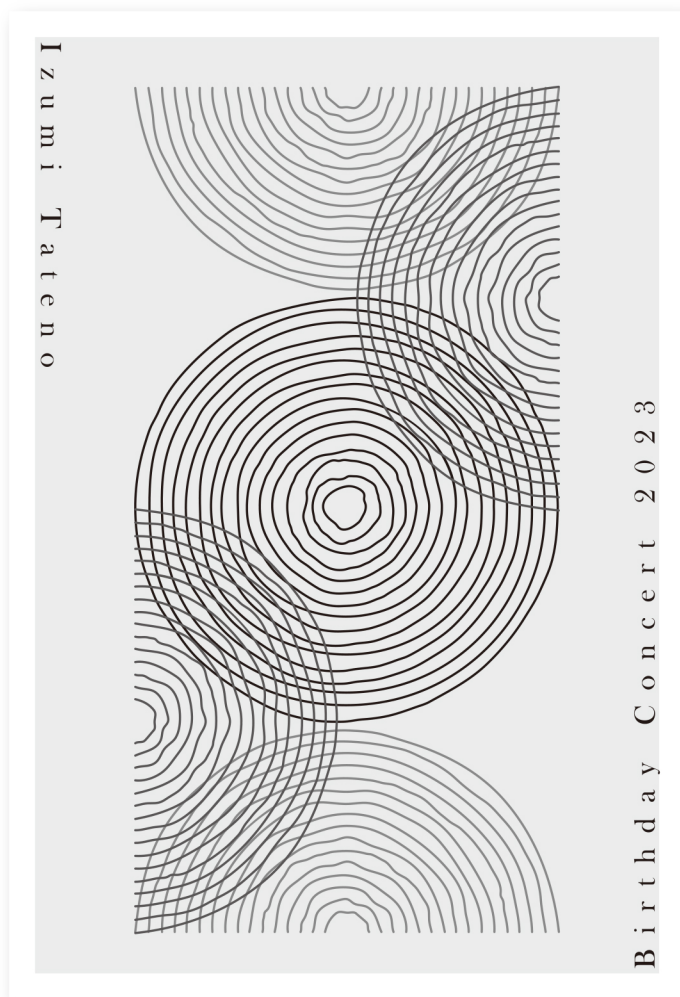


米寿記念演奏会

舘野 泉

バースデー・コンサート 2023



素晴らしい仲間たちと一緒に

2023年11月10日(金) 14:00 東京オペラシティ コンサートホール

2:00p.m., Friday, November 10, 2023 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催: ジャパン・アーツ 後援: フィンランド大使館 協力: 舘野泉ファンクラブ

音楽で生きていくほど幸せなことはないというのが父の口癖でした。
子供たちが大好きで、子供たちを教えながら一緒に生きていくその姿がいつも心に浮かびます。
本当に真剣で楽しそうに生きていました。

米寿の歳まで生きてきて、弦楽器や管楽器の素晴らしい仲間達と一緒にコンサートが出来るのは
何にもまして大きな喜びです。

大好きなヤナーチェク、鬼の学校から分校まで日本中に作ってくれた平野一郎、当日が初演となる
新作を作曲してくれたパブロ・エスカンデに乾杯！

そしてこのコンサートが生まれることを助けてくださった数えきれない方々に心から感謝します。

今年の3月に還らぬ人となった最愛の妻マリアにこのコンサートを捧げます。

良い音楽が生まれることを誰よりも喜んでくれた人ですから。

館野 泉

プロフィール

館野 泉(ピアノ) Izumi Tateno, Piano

クラシック界のレジェンド。今年数え年88歳を迎える。領域に捉われず、分野にこだわらず、常に新鮮な視点で演奏芸術の可能性を広げ不動の地位を築く。2002年に脳溢血で倒れ右半身不随となるも、しなやかにその運命を受けとめ、「左手のピアニスト」として活動を再開。館野泉の左手のために10ヶ国の作曲家により100をこえる作品が献呈される。

館野泉オフィシャルウェブサイト <https://www.izumi-tateno.com/>

レオシュ・ヤナーチェク:カプリッチョ(カプリチオ)「挑戦」(左手ピアノと管楽器のために) ★

L.JANACEK: Capriccio for Piano Lefthand and Wind Ensemble

平野一郎:鬼の学校 ~左手のピアノと弦楽の為の教育的五重奏 ♪ ◆

Ichirô HIRANO: WONI NO GAKKÔ [GOBLIN SCHOOL]
Educational Quintet for Lefthand Piano & Strings (Dedicated to Izumi Tateno)

α:登校、もしくは始め方 way to school | how to begin

I:基礎科目 fundamental subjects

1限)そろえ方 how to align

2限)かぞえ方 how to count

3限)つづり方 how to spell

A:運動(と悪戯) gymnastics (& mischief)

II:教養科目 cultural subjects

4限)ふるまい方 how to behave

5限)たしなみ方 how to taste

6限)なりすまし方 how to impersonate

B:給食(と転寝) meal (& snooze)

III:実践科目 practical subjects

7限)ぬすみ方 how to steal

8限)ゆすり方 how to threaten

9限)だしぬき方 how to outwit

C:掃除(と喧嘩) clean (& quarrel)

IV:生存科目 survival subjects

10限)たたかい方 how to resist

11限)にげ方 how to escape

12限)かくれ方 how to disappear

X:放課後の鬼生訓 goblin life lessons after school

ω:下校、もしくは終わり方 way to home | how to end

パブロ・エスカンデ:奔放なカプリッチョ(委嘱作品・世界初演) ♪ ★

Pablo ESCANDE: Capricci Stravaganti
World Premiere for Piano Lefthand and Wind Ensemble (Dedicated to Izumi Tateno)

♪ = 館野泉に捧げる/「館野泉左手の文庫」助成作品

共演者 ★

平石章人 Akito Hiraishi (指揮, Conductor)

甲斐雅之 Masayuki Kai (フルート, Flute)

辻本憲一 Kenichi Tsujimoto (トランペット, Trumpet)

尹千浩 Yoon Cheonho (トランペット, Trumpet)

新田幹男 Mikio Nitta (トロンボーン, Trombone)

ザッカーリー・ガイルズ Zachary Guiles (トロンボーン, Trombone)

野々下興一 Koichi Nonoshita (トロンボーン, Trombone)

齋藤充 Mitsuru Saito (ユーフォニアム, Euphonium)

共演者 ◆

ヤンネ館野 Janne Tateno (ヴァイオリン, Violin)

小中澤基道 Motomichi Konakazawa (ヴィオラ, Viola)

矢口里菜子 Rinako Yaguchi (チェロ, Cello)

ジョナサン・ステファニアク Jonathan Stefaniak (コントラバス, Contrabass)

レオシュ・ヤナーチェク:カプリッチョ(カプリチオ)「挑戦」(左手ピアノと管楽器のために)

スメタナやドヴォルザークと同じく民権主義運動の盛んな時代を生きたチェコの作曲家レオシュ・ヤナーチェク(1854ー1928)の故郷モラヴィアは、プラハのあるボヘミアとは幾分違う東洋的色彩の強い音楽風土で知られ、その民謡を研究分析することでヤナーチェクは、他の作曲家にはない独自の音楽語法を築き上げた。ムソルグスキーのリアリズム芸術に深く傾倒し、民謡と朗唱様式を基礎にしたオペラの創作に情熱を燃やしたヤナーチェクだが、その仕事が広く認められるのは晩年になってからのことである。室内楽の分野でも、2曲の名高い弦楽四重奏曲をはじめ幾多の傑作が晩年に生み出されている。自由な創意が横溢するこの「カプリッチョ」も、そんな晩年の一曲だ。左手のピアノと7人の管楽器アンサンブルという珍しい編成によるこの作品は、第一次世界大戦での負傷により“左手のピアニスト”となった、オタカル・ホルマンの委嘱により1926年に作曲され、1928年に初演された。

左手のピアノを取り巻く管楽器の編成は、フルート(ピッコロ持ち替え)、2本のトランペット、3本のトロンボーン、ユーフォニウムという金管楽器中心のアンサンブルで、エキセントリックな響きが時として悲愴な一面もみせる独特の作風は、ヤナーチェクならではのものである。

第1楽章	アレグロ	第2楽章	アダージョ	第3楽章	アレグレット	第4楽章	アンダンテ
(柿沼 唯／作曲家)							
* * *							

とても興味深い編成のヤナーチェク作曲カプリッチョは珍しい事だらけの曲。類を見ない編成に加えてピアニストは左手だけで演奏するという稀に見る作品です。

この作品が作曲されたのは日本ではちょうど大正時代から昭和時代に移り変わる頃。元々ヴァイオリン奏者であったオタカル・ホルマンが第一次世界大戦の最中右手に銃弾を受け演奏出来なくなった為、残された左手だけでピアノ奏者として活動を始め、演奏出来る曲をヤナーチェクに依頼して出来上がった曲です。

作曲まではヤナーチェクとホルマンとの間に紆余曲折あり、当初ホルマンからの依頼にヤナーチェクは難色を示したそうですが考えを改め作曲、最終的にホルマンの演奏がヤナーチェクを納得させ初演が出来たのは1928年でヤナーチェクが亡くなった歳でした。存在意義のあるこの作品が戦争で受けた銃弾がきっかけで生まれたというのは皮肉な歴史です。携帯電話もインターネットも無い混沌とした時代背景を想像しながらお聴きいただくのもまた楽曲を愉しめる一つだと思います。

ヤナーチェクは管楽器の性能を知りつつ高度な技術を要求しています。晩年の作品であるにも関わらず特異な編成。副題Vzdor:挑戦または反逆という言葉には色々な意味が含まれていると想像してしまいます。

米寿を迎えた今もなお挑戦し新しい世界を開拓し続ける館野さんの姿勢は私達にとって生きる伝説、憧れであり遠い目標です。

今回のお祝いに素晴らしい奏者が集まります。因みに私と館野さんは歳の差40歳近く!共演させて頂けるのは大変光栄なことです。

世代は違えど、それぞれの最高のStravagantiなVzdorをお聴きいただければ幸いです。

(辻本憲一)

平野一郎:鬼の学校 ～左手のピアノと弦楽の為の教育的五重奏

館野泉さんとの鬼シリーズ第二作が「鬼の学校」と決まったのはいつだったかとメールの履歴を遡ると、前作「鬼の生活」完成前の2021年4月28日の発信に辿り着いた。『——来年のことを言うと何かが笑う、なのですが、シリーズ第二弾!とのお話を聞いて早速妄想が溢れております。(中略)「鬼の学校」というのはいかがでしょうか?おどし方、ぬすみ方、あばれ方、うそぶき方、にげ方、かくれ方、たたかい方etc…鬼の先生は、若い生徒たちに、人生(鬼生)に大切な生きのびる知恵を「お前ら忘れるなよ」と音楽で授ける、と言う趣向です。酒呑童子先生とその眷属兼生徒4人が(シューベルト「ます」五重奏の編成で)背の順でずらりと並ぶ、みたいな感じでもあります。勝手ながら、早くもワクワクが止まらなくなっています。——』すると、ほどなく館野泉さんからお返事が来た。『——「鬼の学校」のアイデアも「ます」と同じ編成であることも含めて素晴らしいと思います。曲自体の長さもたっぷりあって良いかなと考えていますが如何でしょう。「学校」という視点も編成も大変興味があり、変化に富んだ音世界がもたらされると思います。——』

その後2021年5月に完成した前作「鬼の生活」は紆余曲折あって年末フィンランドにて世界初演。年明け2月には東京初演、そして6月東京文化会館での上演と、オグリをおらぶ琵琶弾き山鹿良やましきよしゆきさんの至芸を彷彿とさせる凄演に立ち会った。実は「学校」作曲が本格始動したのはその直後の6月中旬。それまでジッと熟成を待っていた。というのも閃きに任せて提案したは良いが、天衣無縫の「生活」の作曲・上演を経る内に——そもそも鬼どもわざわざ学校なんて人間臭いところで一体何を学ぶというのか。人の社会に対する鬼の世界は、醜い文明に対する美しい野蛮。奥山のそのまた奥にあるという彼らの原始共同体で学べないことがあるのだろうか——と重大な疑念が生じたのである。しかし目を瞑ると必ず浮かぶ脳裡の景色、鬼の師弟のやりとりじっと耳を澄ませているとハッと気づいた。どうやらそれはもはや鬼が鬼らしく生きられなくなった時代。生き鬼の目を抜く賢しい人間と渡り合い、時には人に成り済ましてでも、如何にして彼らの尊厳を保ち命脈を繋ぐか身を以て学ぶためにこそ、止むなく学校が建てられたいらしい。実に「鬼の学校」とは近代鬼苦渋の人間対策だった、と。

而して彼らの学校の教室の黒板横に貼り出された時間割表が見えてくるや否や、想像だにしなかった鬼天烈な音楽が次から次と湧き出して、基礎科目→教養科目→実践科目→生存科目ときめ細やかに体系化され全方位的に展開するカリキュラム＝疲れ知らずの十二時間授業が現れた。それでも到底飽きたらず、登下校、運動、給食、掃除から放課後に至るまで、鬼たちの有り余る貪慾な生命力が溢れ出し、当初の計画とはまるで違った音のドラマの展開と結末があれよあれよと導かれた。もちろん鬼の事だから日の入りに始まって日の出と共に終わるのだろう。前作「鬼の生活」からたぶん数百年は経った昭和か令和か平成か、山々の間をゴンゴン鳴り渡る始業のチャイムに駆け集まった鬼っ子たちへ、すっかり老境に達した酒呑童子先生が授ける理想の“学校教育”(…であると同時に、音楽家・館野泉氏が舞台の上で後の人におくる渾身の“音楽教育”)。編成はピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス。小鬼っ子から大鬼っ子まで皆マチマチなのが良い。

本当に大切な教えは何か。どんなに滅茶苦茶に救い難い時代と社会にあっても、したたかにひたむきに生き延びる鬼の師弟に励まされて、2022年夏の終わりに全霊の喜びの中で書き上げた。ちなみにスコア全曲のべ72頁、演奏時間40分の大作となったのは、作曲家の勝手な無茶振りではなく、何度か尋ねて確認したから間違いのない、館野泉さんたってのご希望通り。凄い人。

●鬼の学校——参観の手引き●

α：登校、もしくは始め方 way to school | how to begin

日の入りの刻。遥かな嶺の向こうから轟くのは地鳴りか太鼓か足音か。渦まき散らして近づいてきたのは鬼声歓声あげながら疾風の如く駆けてくる小鬼たち。ひしゃげたチャイムにギリギリ間に合い校門から飛び込んだら大好きな酒呑童子先生にご挨拶。嘘がつけない生徒たち、ニンゲン式の敬礼にはからっきし拒否反応だが、ヲニ流の合言葉には脊髄反射で応えます。

I：基礎科目 fundamental subjects

まずは最初に読み書き算盤。これがなくては意地悪な文明社会ではニンゲン扱いしてもらえません。いやそもそも何事もそこそ揃わないでは始まらない。

1限)そろえ方 how to align

皆それぞれ声を整えて、次に先生の呼びかけに応じて。誰かが出来たらその他がずれる、その他が出来たら誰かがしくじる。でも心配ご無用。あきらめたその弾みでうまくいくこともある。

2限)かぞえ方 how to count

一、二、三、四、ヒ、フ、ミ、ヨ、無花果、人参、山椒に椎茸、唱えて歌って指折って、あの手この手で一から十まで叩き込む。

3限)つづり方 how to spell

イロハニホヘト、チリヌルヲ、ラシドレミファソ、ミbレbシbラbソb、退屈きわまる綴り字も、ぐにゃぐにゃ続けているうちに野放図きわめた落書きの様。

A：運動(と悪戯) gymnastics (& mischief)

休み時間だ!生徒らキャッキョッと大ハシャギ。ヘンテコ行進で校庭に出たら先生の号令一喝、全身をブルブルン振り回す体操の時間。驚くべき体力で、振り子運動、逆上がりから宙返り、超大技の大車輪まで。

II：教養科目 cultural subjects

教室に戻ると一転、気が進まない嫌々苦手の行儀作法。借りて来た猫のようにおとなしくなる小鬼たち。

4限)ふるまい方 how to behave

荘重なサラバンドに乗って、お淑やかにしずしず振る舞いましょう。時折どうにも我慢できない呻き声が上がっても、そんな雑音は聞かなかったことに。

5限)たしなみ方 how to taste

優雅なメヌエットに合わせて、品良くあれこれ嗜みましょう。瀟洒なハミングから牙がはみ出て呑気なヲニの鼻歌に脱線するのはご愛嬌、綺麗なお辞儀で包み込んで、なかったことにすれば良い。

6限)なりすまし方 how to impersonate

婀娜なワルツを踊りながら、浮き世の憂さを晴らしましょう。ときおり相手の足を踏み不平不満が拳がっても、クルクル廻っているうちに皆忘れてしまうでしょう。

B：給食(と転寝) meal (& snooze)

苦手教科から解放されてランランランとスキップしながら機嫌よく遊び…たいけどお腹が空いたら元気が出ない。そこでちょうど給食の時間。物凄い速さで配膳し両手を合わせてイタダキマス。わずか十秒で鬼盛りご馳走ぜんぶ平らげたら、再び合掌ゴチソウサマデシ…タ。お腹一杯になるや否や、すぐさまコトンと眠りに落ちる生徒たち。鼾に揺られて見る夢は、昔ながらのヲニの楽園。

III：実践科目 practical subjects

刻は真夜中。鬼怪に歪み始めたチャイムを合図に飛び起きたら、次はいよいよニンゲンの法の網の目かい潜る、とっておきの手練手管を習います。

7限)ぬすみ方 how to steal

抜き足、差シ足、忍ビ足、ヲニのガッコのベンキョーだ!良心の呵責に苛まれぬよう勉強勉強いい聞かせながら、ニンゲンの家・店その他に恐る恐る侵入しましょう。

8限)ゆすり方 how to threaten

万が一出くわしたら、出来るだけ低くドスの効いた怖ろしい声色だして、目の前のニンゲンを震え上がらせましょう。

ヴィオラ・チェロ・ヴァイオリン・コントラバスの順番で、はい一人づつ!

9限)だしぬき方 how to outwit

大ベテランの先生の懼ろしいお手本通り、あらん限りのハツトリ効かせて一斉に、相手の虚を衝き遣り込める秘伝の技を授かります。

C：掃除(と喧嘩) clean (& quarrel)

流石のヲニもここへきて疲れたかブウブウ文句も出てくるが、もう一度気を取り直して日頃お世話になっている有難い教室のお掃除を。慣れた手つきでサッサと拭き始める先生の見様見真似、生徒らもあたり構わず雑巾掛け。床を並んで拭いていると肘が当たり、オイ、ドケ、ヤメロ、アッチイケと小突き合う内あちこちで喧嘩が勃発、覚えたての脅し文句が早速役に立っている。先生の激しい怒号がふと止んで、なにやら眩くその不穩に、いよいよ酒呑童子の本性が仄見え、俄かに息を呑む小鬼たち。

IV：生存科目 survival subjects

他愛ない喧嘩から剥き出しになったエネルギーをすかさず利用する老先生、小鬼らのゲノムにもしかと刻まれたはずの不撓不屈・独立不羈の叛逆心を、今がチャンスと呼び起こし煽り立てる。

10限)たたかい方 how to resist

まつろわぬ種族の抵抗運動、誇り高さ兵法・鬼剣舞。テホヘテホへと暴れ倒したその拳句に、激しい胴魔声上げながら、覚えたての方式で心の中に一から十まで数えたら…

11限)にげ方 how to escape

今だ!逃げろ。どンドン走って野越え山越え、追ってくるニンゲンが芥子粒くらいに遠くなったら、峠の上で振り返って、思いつ切りアッカンベエをお見舞いしてやりましょう。

12限)かくれ方 how to disappear

すっかりニンゲンが見えなくなったら大丈夫、襦褌で作った鬼印の旗振りながら隊伍を組んでヒョコヒョコノシノシ、山の彼方の奥の奥のそのまた奥に、仲間もろとも隠れましょう。モウイイカイ? マアダダヨ!

X：放課後の鬼生訓 goblin life lessons after school

終業のチャイムが響くと、小鬼らはイソイソ仲良くお手手繋いで集団下校。静まりかえった教室に一人ポツンと残った酒呑童子先生、果たして自分の施した教育はホントウに正しかったのだろうか、物狂おしく反芻・煩悶。すると帰ったと見えて実は戻った生徒らが一人また一人、老先生の周りに集まって…

気がつくと白々すっかり明けた朝の大気に、遥か下界のニンゲンの学校で本物のチャイムが響く頃。

ω：下校、もしくは終り方 way to home | how to end

(社会がどんなに腐っても、世界がどんなに壊れても、生命は躍動する。やっぱりヲニはヲニらしく。)

<div><div></div>平野一郎（作曲家）</div>
<div> <div><div>丹後國宮津生。京都市芸大卒・同大学院修了。在学中より各地の祭礼と音楽を踏査。2001年より作曲活動を本格開始、京都を拠点に日本の風土や伝承に根差した創作を展開。響きや調べ、声と言葉の根源をたずね、失われた身体性・全人性を呼び覚ます音楽世界を志す。日本交響楽振興財団作曲賞最上位・日本財団特別奨励賞、青山音楽賞、京都市芸術新人賞、現音富樫賞、藤堂音楽褒賞、京都府文化賞奨励賞等受賞。ISCM2008入選。2011年モノオペラ(邪宗門)初演。館野泉・左手の文庫委嘱作品:精霊の海(2011)微笑の樹(2012)二重協奏曲(星巡ノ夜)(2014)鬼の生活(2021)鬼の学校(2022)の他、誠宮交響曲(2010/芦屋交響楽団)四季の四部作(2014/吉川真澄)八幡大縁起(2016/やわた市民音楽祭)胡絃乱聲(2018/国立劇場)とこよのはる(2019森の会)ピアノソナタ(光人彷徨)(2023/イリーナ・メジャーエフ)等委嘱作多数。17年より出雲芸術アカデミー-CiRとして「連作交響神樂」(管弦楽+声楽)進行中。19年NHK-BS8K《落慶～奈良・興福寺～》音楽制作。22年オペラ『あの町は今日もお祭り』(全5幕/国立市)初演。</div></div></div>

パブロ・エスカンデ: **奔放なカプリッチョ** (委嘱作品・世界初演)

本日のコンサートのための新曲の依頼を館野氏から頂いたのは、2002年11月のことでした。これまで館野氏に委嘱された作品は全部で10、どれも私にとって素晴らしい作曲の経験となりました。毎回異なる編成での作曲が、新たな発見やチャレンジとなりました。

今回、館野氏はヤナーチェクのカプリッチョと同じ編成(特殊な編成!)で書くことを条件として依頼されました。そして、ヤナーチェクの作品は非常に難解であるため、新しい生命の喜び、力と歓喜に溢れた曲を書いて欲しいと言われました。私はヤナーチェクのカプリッチョを何度も繰り返し聴き、自作で何が出来るのかを熟考しました。

奔放なカプリッチョは短い導入と4つのカプリッチョで構成されています。それぞれのカプリッチョはピアノのカデンツにより区切られています。全体的には合わせ鏡ようになっており、中心部分にはピアノの2番目のカデンツ(一番長い)が置かれています。それぞれのカプリッチョは形式も性格もテンポも編成も異なり、唯一ピアノのカデンツでは特有のテーマが繰り返されます。そしてカデンツの終わりでは、次に続くカプリッチョの雰囲気や新しいテンポを導いていきます。

導入・・・1番目のカプリッチョに属している 金管楽器奏者はミュートを付け、ファンファーレ風に奏する
カプリッチョ1・・・ABA'B'A"形式
ピアノ ソロカデンツ・・・ピアノパート特有のテーマを弾きながら、次第にカプリッチョ2へ繋げていく
カプリッチョ2・・・ABA' - コーダ形式 ユーモアを持って
ピアノ ソロカデンツ・・・一番長いカデンツ カプリッチョ3に繋ぐ
カプリッチョ3・・・ABA'CA"- コーダ形式 緩やかなミロンガで、大部分が4分の5拍子 悲哀に満ちて
ピアノ ソロカデンツ・・・1番目のカデンツに共通 次第にカプリッチョ4に繋げていく
カプリッチョ4・・・ABA' - コーダ形式 4分の7拍子 中央部分はトッカータ風

2002年より館野氏が世界各地の様々な作曲家に数多の依頼をしてからは、少なかった左手のピアノのためのレパートリーが大変豊富になりました。

館野氏の偉業は作曲家、左手のピアニスト、学生、音楽学者、出版社などにとって大きな発展をもたらしました。作曲家として館野氏に改めて感謝の意を表したいと思います。

本日、この新作を聴衆も演奏者も心から楽しんでいただけることを願っています。

(パブロ・エスカンデ)

パブロ・エスカンデ (作曲家)

1971年、アルゼンチン生まれ。アムステルダム音楽院作曲科卒業。2008年、アメリカアリエノール作曲コンクールにて名誉賞を受賞。2012年より日本在住。これまで館野氏の左手のために、ピアノ協奏曲「アンティボガス」、ピアノとクラリネットのための「チェスの対局」、ピアノと金管楽器と打楽器のための「アヴェ・フェニックス〜紅の風」、ピアノ独奏曲「松尾芭蕉による3つの俳句」「悦楽の園」、ピアノとヴァイオリンのための「グラフィティ エリア」など10作品を献上。



© Andrej Grik

平石章人 Akito Hiraiishi (指揮, Conductor)

上野学園大学にて下野竜也、大河内雅彦の両氏に指揮を学ぶ。東京音楽大学にて広上淳一、田代俊文の両氏に指導を受けた後、ウィーン国立音楽演劇大学にてヨハネス・ヴィルトナー氏の元で研鑽を積む。2021年よりNHK交響楽団にて首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィのアシスタントを務め、その後同団の指揮研究員として公演に携わる。東京フィルハーモニー交響楽団、広島ウインドオーケストラ、N響室内楽公演、東京・春・音楽祭などで活躍。



甲斐雅之 Masayuki Kai (フルート, Flute)

東京藝術大学を経て同大学院修了。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院にて研鑽を積む。第61回日本音楽コンクール・入選。第9回日本フルートコンヴェンションコンクール・入選。オーケストラ活動のみならずソロや室内楽で活躍する他、各地の音楽祭などに参加する。アジアフルート連盟理事。東京音楽大学講師、エリザベト音楽大学特別講師、香川県高松第一高等学校音楽科中央講師。NHK交響楽団首席フルート奏者。



辻本憲一 Kenichi Tsujimoto (トランペット, Trumpet)

1994年東京藝術大学音楽学部器楽科入学。1996年第65回日本音楽コンクール第二位、特別賞受賞、第13回日本管打楽器コンクール第二位受賞。1997年東京フィルハーモニー交響楽団入団。1998年東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。2000年～2001年アフィニス文化財団の奨学金を受けドイツ、ハンブルグに留学、エリーゼマイヤーコンクール第一位受賞。2004年東京フィルハーモニー交響楽団首席奏者就任。2016年より読売日本交響楽団首席奏者。



尹千浩 Yoon Cheonho (トランペット, Trumpet)

神奈川県横浜市生まれ。愛知県立芸術大学在学中、アジアユースオーケストラ、小澤征爾音楽塾、PMFに参加。同大卒業後渡米し、クリーヴランド音楽院及びコルバーン音楽院修了。在米中にウエストヴァージニア交響楽団の副首席トランペット奏者、パークリー交響楽団の首席奏者を歴任。現在、読売日本交響楽団トランペット奏者。昭和音楽大学、洗足学園大学各非常勤講師。



新田幹男 Mikio Nitta (トロンボーン, Trombone)

大阪音楽大学卒業。トロンボーンを呉信一氏、Nitzan Har ozに、室内楽をDaniel Doyonに師事。仙台フィルハーモニー管弦楽団、読売日本交響楽団を経て、現在、NHK交響楽団首席トロンボーン奏者。2019年には、Alessi Seminer in Asiaにジョゼフ・アレッシのアシスタントインストラクターとして招聘された。東京音楽大学特任教授、大阪音楽大学 客員教授。ハイブリッド トロンボーン四重奏団、Trio Diesel、Brass code 12、各メンバー。



© Taira Tairadate

ザッカリー・ガイルズ Zachary Guiles (トロンボーン, Trombone)

アメリカ合衆国、バーモント州出身。オーバリン音楽大学、ニューイングランド音楽院卒業。トロンボーンを元クリーヴランドオーケストラ首席奏者ジェームズ・デサノ、元ボストン交響楽団奏者ノーマン・ボルター各氏に師事。2012、2014年タングルウッド音楽祭、2013年ノアフォーク室内楽音楽祭に奨学生として参加。ユタシンフォニー副首席奏者、リッチモンド交響楽団首席奏者を経て2022年東京都交響楽団のトロンボーン奏者として入団。



野々下興一 Koichi Nonoshita (トロンボーン, Trombone)

1975年東京都生まれ。洗足学園大学卒業。第一回大阪トロンボーンコンペティションアンサンブル部門最高位入賞。バストロンボーンを秋山鴻市に師事。東京都交響楽団バストロンボーン奏者。東京音楽大学講師。侍プラス、Trio Diesel、Brass Code 12、各メンバー。



齋藤 充 Mitsuru Saito (ユーフォニアム, Euphonium)

国立音楽大学卒業、ミシガン大学大学院修士課程、ノーステキサス大学大学院博士課程修了。日本管打楽器コンクール、フィリップ・ジョーンズ国際コンクール、レオナルド・ファルコーニ国際コンクールにて第1位。NHK-FMリサイタル、東京オペラシティ・リサイタルシリーズB→C、国際チューバ・ユーフォニアムカンファレンス等に出演。国立音楽大学、洗足学園音楽大学、尚美ミュージックカレッジ専門学校他各非常勤講師。侍プラスメンバー。



ヤンネ館野 Janne Tateno (ヴァイオリン, Violin)

フィンランド・ヘルシンキ生まれ。シルッカ・クーラ、オルガ・パルホメンコ、森悠子の各氏に師事。現在ヘルシンキを拠点とするラ・テンペスタ室内管弦楽団のコンサートマスター、音楽監督を務める他、山形交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者、森悠子主宰長岡京室内アンサンブルのメンバーとしても活動する他、バロックヴァイオリン演奏、アルゼンチンタンゴ演奏、コンサートのプロデュースをするなど幅広い活動を展開。ヤンネ館野オフィシャルウェブサイト <https://jannetateno.com/>



小中澤基道 Motomichi Konakazawa (ヴィオラ, Viola)

長野県諏訪市に生まれ。4歳よりヴァイオリンを始める。洗足学園音楽大学大学院在学中にヴィオラに転向し、岡田伸夫氏に師事する。2007年原田幸一郎指揮、洗足フィルハーモニーと協演。現在、日本フィルハーモニー交響楽団ヴィオラ奏者。Ensemble il vischio、アステルベ弦楽四重奏団、硬派弦楽アンサンブル「石田組」のメンバーとしても活動。洗足学園音楽大学非常勤講師。



矢口里菜子 Rinako Yaguchi (チェロ, Cello)

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学を経て、ドレスデン音楽大学にて研鑽を積む。第10回ピバホールチェロコンクール第1位。第31回霧島国際音楽祭賞。ソリストとしてザクセン州立警察オーケストラなどと共演。現在山形交響楽団首席チェロ奏者。異なる楽団のトッププレイヤーから成る弦楽四重奏団「The 4 Players Tokyo」として、BSテレビ東京「エンター・ザ・ミュージック」に定期的に出演している。

© 平館平



ジョナサン・ステファニアク Jonathan Stefaniak (コントラバス, Contrabass)

米ウィスコンシン州ミルウォーキー出身。ルーズベルト大学シカゴ芸術音楽院を卒業。在学中、シカゴ交響楽団トレーニングオーケストラのシカゴシビックオーケストラに所属。ニューヨーク ストリングオーケストラセミナー、パシフィックミュージックフェスティバルなど、各地フェスティバルに参加。兵庫県立芸術管弦楽団団員を経て、現在読売日本交響楽団所属。2019年館野泉率いるラ・テンペスタ室内管弦楽団日本ツアーに参加。



【アーティストサポート】を通して、
アーティストたちの活動をご支援いただき、ありがとうございます。
時や国を超え「生きる力」を与えてくれる文化・芸術に、
引き続きのご支援をお願い申し上げます。

ご支援をいただいた個人ならびに企業・団体の皆さま

<館野泉バースデープロジェクト>

Y.A 阿部将任・登美子 新井京子 池田光世 一柳吉子 A.I 大嶋早苗 大嶋浩美
大谷恵美子 S.O 奥田三華 小畑裕子 木全恵美子 久保春代 M.K 黒川智恵美
黒住彰子 斉藤久子 坂井和 佐々木暁子 菅原佳世子 鈴木早苗 R.T 田口雅子
田邊英利子 土谷美保子 中村恭子 中村康江 K.H 羽生賢次 福島晶子 堀田高秀
松田純子 三上美智恵 光永育 K.M 山家七恵 S.Y K.Y 吉岡玲子 吉田和充・淳子
館野泉ファンクラブ東京 館野泉ファンクラブ東北 タビオラの会 日本セヴラック協会
有限会社ムジカーザ NPO 法人 M プロジェクト (匿名希望 16名)

<2023年度年間サポート>

F.A Y.A 今井良成 S.U 植原由起子 S.U M.E A.O K.O S.O 河村はるみ K.K
木村美明 M.K 小室秀夫 新貝康司 N.S M.S A.D 土屋涼子 ツルラーブ真智子
ツルラーブ真凜 N.N 中島和 中野和枝 中村尚義 中村美穂 T.H M.H 藤野盾臣
細沼康子 M.H 松尾芳樹 松田香 真野美千代 三橋祐太 J.M H.M S.Y
TDK 株式会社 MEDIHEAL & SEKIDO コンツェルト・ハウス・ジャパン by 株式会社キタマ
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション
ライブプラン株式会社 Heart of the Earth 株式会社
ナレッジワーカーズインスティテュート株式会社 株式会社 RINABO きづきアセット株式会社
株式会社青林堂 日本パデレフスキ協会 淡路 (匿名希望 22名)

<ショパン・ピリオド楽器プロジェクト>

S.O ツルラーブ真智子 (匿名希望 1名)

<ニュークラシックプロジェクト>

浅岡尚子 岩井睦雄 上原啓子 小田島容子 K.K 久保千聖 雲然祥子 小池美喜
篠崎啓史 I.S T.S ツルラーブ真智子 ツルラーブ真凜 T.N 長谷部宏行 秦勝重
T.H 林路郎 細沼康子 牧野佳那 松下泰之(マティビ) S.Y (匿名希望 14名)

2023年10月31日現在 敬称略/匿名希望の方は記載しておりません

ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720
(平日11:00~17:00 年末年始を除く)

アーティストサポートの
詳細はこちらを
ご覧ください。

